

第55回試験研究成果発表会（林業）発表概要

【日時】平成30年2月7日（水）13:30~16:00

【会場】さんぶの森文化ホール（山武市埴谷1904-5 さんぶの森公園）

発表1 成果発表（13:40~14:05）

花粉の少ないスギ植栽地における雄花量の多いスギの除伐効果

森林研究所 成沢 知広

花粉の少ないスギは、その一部に、雄花を多くつける多雄花木が混じることが知られています。若い時期にその個体を判別し、除伐により除去することで、より花粉量を減らせる可能性があります。そこで、花粉の少ないスギの植栽地において、若齢時に多雄花木の除伐を実施し、その効果の調査を行いましたので発表します。



多雄花木除伐後の雄花生産量調査

発表2 情報提供（14:05~14:30）

シイタケの放射性セシウム濃度はほだ木のどの部分と相関が高い？

森林研究所 岩澤 勝巳

シイタケの放射性セシウム対策で実施されるほだ木検査の精度を向上するためには、ほだ木の放射性セシウム濃度から、発生するシイタケの濃度を正確に予測する技術の開発が必要です。本発表では、ほだ木の各部位（心材、辺材、内樹皮、外樹皮）とシイタケとの放射性セシウム濃度の関係について調査を行いましたので、情報提供します。



ほだ木から発生したシイタケ

発表 3 情報提供 (14:30~14:55)

マツノザイセンチュウ抵抗性アカマツの 16 年生時点の生存率と成長

森林研究所 遠藤 良太

アカマツはやせ地に適した樹種であり、山砂採取跡地など土壌条件が良くない場所での植栽にスギやヒノキよりも適しています。したがって、松くい虫に強いとされるマツノザイセンチュウ抵抗性アカマツが、実際にどの程度生き残るか、また順調に成長するかを確認しておくことは重要です。そこで、抵抗性アカマツ試験林で 16 年生時点の生存率と樹高、胸高直径について調査を行いましたので、情報提供します。



アカマツ試験林

発表 4 情報提供 (14:55~15:20)

再造林コストの削減に向けた省力的な植栽と下刈りの取り組み事例

森林研究所 荒木 功介

国内の人工林の多くは植栽から 50 年以上が経ち、木材として利用可能なサイズに育ってきています。一方、木材価格は低水準な状況が続いており、収穫後の再造林への投資が難しく、「伐って植えて育てる」という人工林の更新サイクルが滞っています。そこで、人工林の更新を進めるため、再造林コストの削減に向けた省力的な植栽と下刈りの試験的な取り組みが全国各地で始まっています。本発表ではこうした事例を紹介します。



下刈り省略の試験地